

大会宣言

私たちは、本日、第20回定期大会を開催し、新たな役員体制を確認するとともに、今後2年間の運動方針を確立した。

わが国は、歯止めのかからない人口減少、格差の拡大と貧困の固定化、社会保障制度の持続可能性、技術革新への対応、さらには気候変動など、かつてない多くの課題に直面している。経済の先行きに対する不安が高まり、既存の政治・制度への不信や不満が広がる中、私たちはその役割と責任を改めて認識し、包摂的で持続可能な社会の実現に貢献しなければならない。

私たちは、連合ビジョンが掲げる「働くことを軸とする安心社会 ーまもる・つなぐ・創り出すー」の価値観を改めて共有・発信し、不条理に立ち向かい、すべての働く仲間の雇用とくらしを守る運動を力強く推進していく。

社会経済の新たなステージへの転換をめざし、物価上昇を上回る持続的な賃上げの実現、労働者保護の一層の強化につながる働き方改革の推進など、現場の実情に根ざした取り組みを進める。すべての働く人々が生涯にわたり尊重され、希望と安心をもって働き暮らすことのできる社会の実現に向け、政策と運動を両輪として、政策・制度の確立に全力を尽くす。

あらゆる運動推進の源泉は組織の力である。私たちは、組合員減少の危機感を共有し、総力を挙げて組織拡大に取り組む。また、集団的労使関係の意義や連合運動の目的を、社会に対して分かりやすく、かつタイムリーに発信するとともに、人財の確保と育成、ジェンダー平等・多様性のさらなる推進など、運動の持続可能性と発展性を支える取り組みを着実に進めていく。

日本は、戦後・被爆80年を迎えた。

世界では今なお、戦争や紛争によって無数の命が失われ、人権が脅かされている。私たちは、国際労働運動に集う世界の仲間と連帯し、核兵器の廃絶と恒久平和の実現を求め、不断に行動し続けていく。

兵庫県では、阪神・淡路大震災から30年という節目を迎えた。

私たちは、震災の教訓を風化させることなく、いのちとくらしを守る災害に強い地域社会づくりを進めるとともに、助け合い・支え合いの精神を未来へと継承していかなければならない。

私たちは、山積する課題の克服に向け、すべての働く人々の期待に応える運動を着実に前進させていかなければならない。連合兵庫加盟のすべての組織は、今大会のスローガンである「安心社会へ 果敢にアクション! ~広げよう『理解・共感・参加』の輪~」のもと、心をひとつに行動していくことを、ここに力強く宣言する。

2025年10月29日
連合兵庫第20回定期大会